

今号のトピックス オンライン認定講習会・1日研修 特集！ THInet 初の試み

## お詫び

読者の皆様、2020年11月号と12月号を欠配し申し訳ありませんでした。創刊から初めての欠配です。編集部員の個人的事情と1日研修会、認定講習会の連続での多忙で、配信への意欲がそがれてしまい、発行することができませんでした。

今後は、編集委員を増員し集団体制で編集に当たる予定です。2月号より編集長も交代し、新企画で望む予定です。(本間・大谷)

## コロナ禍での新方式

11月23日(月)にTHInet 1日研修会、2021年1月10-11日に認定インストラクター講習会を、ともにオンラインで実施しました。また、ネット健康問題を扱う団体らしく、オンライン研修の弱点を補う方式を取り入れ、また、啓発内容はコロナ禍で深刻化した実態を分析し、最新の研究成果を取り入れる努力をしました。

最終参加人数は1日研修が28名、認定講習会が14名でした。成功点や課題は今後整理し、2021年度の企画に生かす予定です。その中で確信できた一つは、1日研修会では、中学生または高校生を対象にしたモデル授業を組み合わせ、将来学校で多層の情報リスク教育を行う場合の基礎となる内容データの構築ができた事です。本号では、その脳分野の構成を報告します。

そして、認定講習会では二日かけ、その背景となる知識(解説・深化版)を質問やグループ討議を含め深めていく日程が適切であると確信できました。

新年度からは、1日研修会を認定講習会の1回分と位置づけ、その参加者の中から、インストラクターを目指す方が、後半2日間の認定講習会を受講する方式を基本としたいと考えます。(分析一大谷)

## オンラインならではの工夫点

今回、オンライン研修を行うにあたって、休憩をこまめに行うことを意識し、講義時間の調整を図りました。また、Zoomの「ブレイクアウトルーム」機能を使い、オンライン上でも小グループで話し合う活動を取り入れました。周知な準備やZoom担当者の伊藤理恵が迅速に作業し、オンラインでも充実した研修会を行うことができました。

## 第2分野「脳の発達障害」モデル授業の構成

第2分野の構成は、

モデル授業1：スマホ・LINE・ゲームの長時間接触による学力(成績)低下の事実(40分)

モデル授業2：スクリーンの長時間接触・読書・活字離れによる言語能力の低下～子どもたちに読書習慣を～(30分)

モデル授業3：ネット依存と脳(25分)

モデル授業4：子どもも大人も脳過労(25分)です。

モデル授業1と2は、川島隆太先生の研究グループによるエビデンスの明確な研究成果を踏まえ展開しました。

モデル授業3は、樋口進先生の『ネット依存』関係著書を参考に、生理学の視点で構成しました。スクリーン・スマホの長時間接触は、WHOのゲーム依存定義にかかわらず、脳内等の発達障害が進んでいる事実を注視し位置づけました。THInetの第6分野のネット依存は、あくまでも社会学視点で迫ることを基本としていますので、両面から子どもたちに働きかけようという設定です。そして、講演の締めは「読書は脳のデジタルデトックス」(川島)です。

モデル授業4は、最新の脳科学研究で言われている「デフォルトモード」に注目し、構成してみました。まだ、エビデンスが弱いと言われている研究対象ですが試みました